



# らくらく Excel ユーザーガイド

Ver.1.2

## 改訂履歴

---

Ver.	改訂日	改訂内容
1.0	2019/11/19	新規作成
1.1	2019/12/05	動作環境の情報を追加
1.2	2020/03/09	新機能の説明を追加

本書に記載されている会社名、製品名、サービス名などは、提供各社の商標、登録商標、商品名です。  
なお、本文中に TM マーク、©マークは明記しておりません。

## 本書の使い方

---

本資料では、らくらく Excel をご利用するにあたって最低限必要な基本操作手順を理解することを目的としています。

※本資料では D3Worker の基本機能に対する知識を前提としています。D3Worker の操作方法については D3Worker のユーザーガイドをご参照ください。

## 本書の表記

---

本書では、以下の表記で記載しています。

表記方法	内容
<b>注意</b>	操作上の注意事項について記載しています。
<b>Point</b>	操作上で知っていると便利なポイントについて記載しています。
[ ]	ボタン名やタブ名、キーボードのキーなどの表記で使用します。
「 」	システム名、メニュー名、画面名、項目名、参照先などの表記で使用します。

# 目次

<b>1. はじめに</b> .....	<b>6</b>
1.1 らくらく Excel とは .....	6
1.2 動作環境.....	7
1.3 使用するカスタムオブジェクト.....	8
<b>2. 全体の流れ</b> .....	<b>9</b>
<b>3. D3Worker の設定</b> .....	<b>10</b>
3.1 サービスの作成 .....	10
3.1.1 「ダミー文書」サービスの設定 .....	10
3.1.2 「Salesforce 一括登録」サービスの設定.....	11
3.2 エンベロープの作成.....	13
3.3 ワークの作成.....	15
3.3.1 データソースの設定 .....	15
3.3.2 エンベロープの設定 .....	16
3.3.3 文書とデータのマッピング .....	16
<b>4. Office アドインの設定</b> .....	<b>17</b>
4.1 Excel ファイルを用意する.....	17
4.2 アドインをインストールする.....	18
4.3 アドインの設定.....	19
4.3.1 接続情報の入力.....	19
4.3.2 使用するワークの選択 .....	19
4.3.3 ワークのデータソースに対する値の選択 .....	20
4.4 Salesforce のレコードを登録・更新する.....	23
<b>5. その他機能紹介</b> .....	<b>25</b>
5.1 Office アドイン「OPROARTS-D3Worker Bridge」の機能紹介.....	25
5.1.1 表示言語を変更する .....	25
5.1.2 パスワードを設定する .....	25
5.1.3 D3Worker の設定画面を Web ブラウザで開く.....	27
5.1.4 D3Worker の設定と同期する .....	27
5.1.5 実行履歴を見る .....	28
5.1.6 ワーク実行に利用した CSV データをダウンロードする .....	30

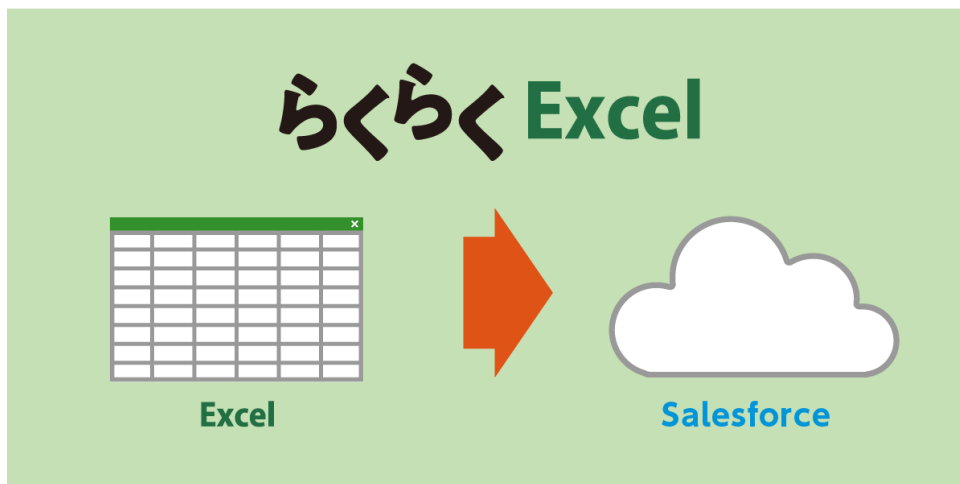
5.1.7	フィールドのインポートとエクスポート.....	30
5.2	らくらく Excel の応用例.....	31

# 1. はじめに

ここではらくらく Excel を用いた Salesforce のレコード登録・更新の概要を説明します。  
また、らくらく Excel の動作環境と本マニュアルで使用する Salesforce のカスタムオブジェクトについても説明します。

## 1.1 らくらく Excel とは

D3Worker のサービス「Salesforce 一括登録」と Office アドイン「OPROARTS-D3Worker Bridge」を用いることで、Salesforce で主従関係にある親レコードと複数の子レコードを Excel シート上から一括登録・更新することができます。



それぞれのツールは、以下の役割を果たします。

- 「Salesforce 一括登録」サービス: D3Worker のワークが受け取ったデータソースの情報を用いて、主従関係にある親オブジェクトと子オブジェクトについて複数のレコードを一括で登録または更新します。
- 「OPROARTS-D3Worker Bridge」アドイン: 「Salesforce 一括登録」サービスを配送サービスに指定したエンベロープを使用するワークに、Excel シート上にあるデータを送信します。使用するワークのデータソースのどのフィールドにどのセルの値(または固定の文字列)を対応させるかを設定することができます。

## 1.2 動作環境

以下のページに、らくらく Excel の動作確認済み環境を記載しています。  
本マニュアルと合わせてご参照ください。

<https://spc.opro.net/hc/ja/articles/360038503714>

## 1.3 使用するカスタムオブジェクト

本マニュアルでは、らくらく Excel でのレコード登録・更新を説明するにあたって以下のカスタムオブジェクトを使用します。

### 親オブジェクト

 親オブジェクト  
P - 0012

---

関連 **詳細**

---

親オブジェクト名  
P - 0012

---

項目A  
サンプル文字列 

---

項目B  
12,345 

項目ラベル	項目名	データ型
親オブジェクト名	Name	テキスト or 自動採番
項目 A	FieldA	テキスト
項目 B	FieldB	数値

### 子オブジェクト

 子オブジェクト  
C - 0038

---

関連 **詳細**

---

子オブジェクト名  
C - 0038

---

親オブジェクト  
[P - 0012](#)

---

項目C  
¥ 34,567 

---

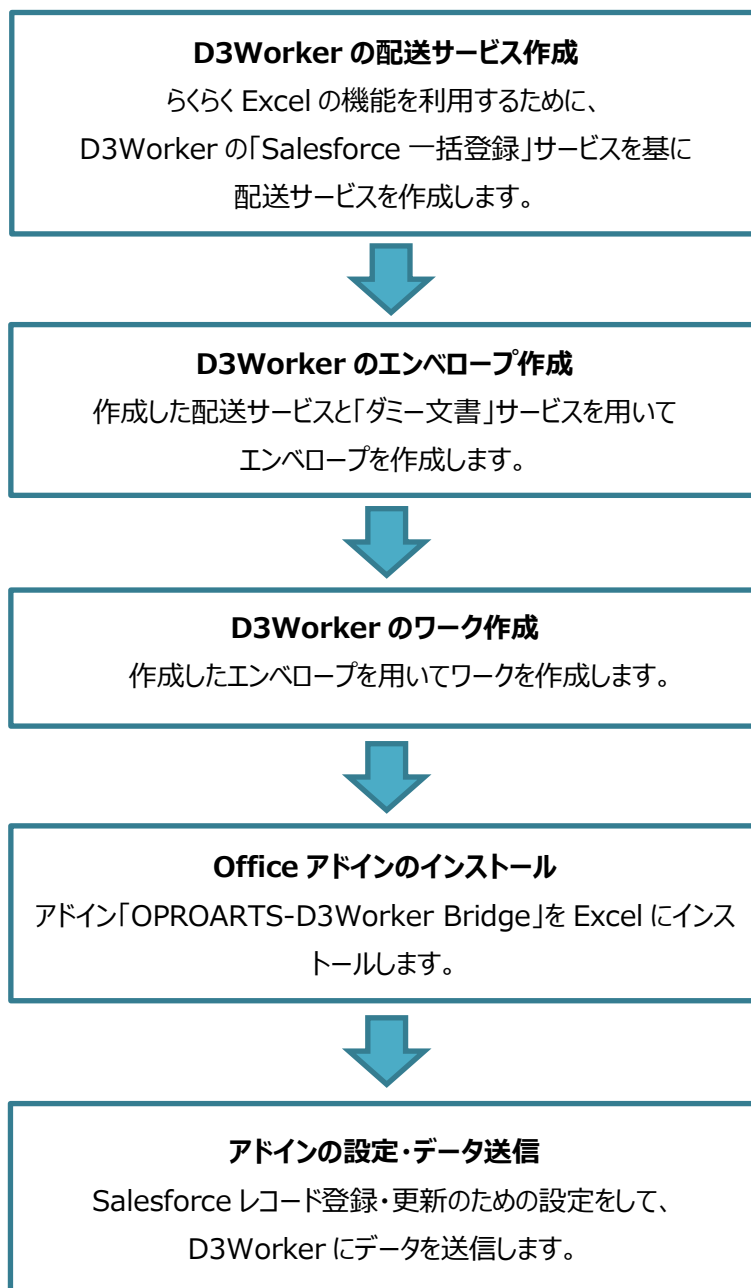
項目D  
[03-1234-5678](#) 

項目ラベル	項目名	データ型
子オブジェクト名	Name	テキスト or 自動採番
項目 C	FieldC	通貨
項目 D	FieldD	電話番号
親オブジェクト	ParentObject	主従関係(親オブジェクト)



## 2. 全体の流れ

らくらく Excel では、以下のような流れで Salesforce のレコード登録・更新が可能になります。



# 3. D3Worker の設定

Salesforce のレコードを登録・更新するためのワークを作成します。

## 3.1 サービスの作成

### 3.1.1 「ダミー文書」サービスの設定

らくらく Excel で Salesforce のレコードを登録・更新する際に、OPROARTS による文書の更新は行われません。  
したがってエンベロープの文書化サービス使用するサービスについては「ダミー文書」を基に作成します。

ダミー文書サービスは、名称とメモ以外に設定項目を含みません。

サービス名称とメモを入力したら保存して、設定は完了です。

The screenshot shows a web interface for setting up a service. At the top, there is a tab labeled 'サービスの設定' (Service Settings). Below this, there are two input fields: '名称' (Name) and 'メモ' (Memo). The 'メモ' field is a larger text area. Below the input fields, there is a preview window titled 'ダミー文書' (Dummy Document) with a close button (x). The preview window contains the following text: '一つの空のファイルを文書として用いる文書化サービスです。' (This is a document conversion service that uses one empty file as a document.), '文書化サービスを必要としないエンベロープで使用できます。' (This service can be used in an envelope that does not require document conversion.), and 'このサービスでは、ワークの[文書とデータのマッピング]の設定は使用しません。' (In this service, the [Document and Data Mapping] setting of the work is not used.).

### 3.1.2 「Salesforce 一括登録」サービスの設定

エンベロープの配送サービスに使用するサービスは「Salesforce 一括登録」サービスを基に作成します。

#### Salesforce への接続

ダミー文書サービスと同様に名称とメモに任意の値を入力したら、一度サービスを保存します。

保存後、「Salesforce への接続」を設定します。

Salesforceへの接続

接続 接続の確認 解除

Sandboxへ接続する

このサービスを使用するには、D3Workerの接続アプリケーションを、お客様のSalesforceアカウントに[接続]する必要があります。  
[接続]すると、現在の設定が保存され、セールスフォース・ドットコム社のサイトにてSalesforceアカウントのサインインが求められます。サインイン後、D3WorkerからSalesforceへのアクセス許可を確認されますので、承諾してください。  
D3WorkerによるSalesforceの操作は、接続を承諾した際のSalesforceアカウントとして行われます。

[解除]すると、D3Workerから接続情報を即座に削除します。Salesforceの接続アプリケーションからは削除されませんので、必要に応じてSalesforceの管理画面で削除してください。  
解除後は、再び[接続]するまではこのサービスは機能しません。

[接続]ボタンをクリックすると Salesforce の認証画面が表示されるので、ユーザ名とパスワードを入力して接続情報を登録します。

<b>Point</b>	一度認証情報を入力した後は[接続の確認]をクリックすることで接続情報を確認できます。 認証情報を変更したい場合は[解除]をクリックすることで登録した認証情報が削除されます。 [解除]をクリックしたあとでこのサービスを使用する場合は、再度[接続]をクリックして認証情報を入力してください。
--------------	---

接続を確認したら「主オブジェクト」の設定に移ります。

#### 主オブジェクト

Excel シートから登録したい親オブジェクトの情報を入力します。

主オブジェクト

API参照名  読み込み

[読み込み]で、オブジェクトの名称と項目をSalesforceから取得し、設定します。  
現在設定されている名称と項目は全てクリアされます。

名称

OPROARTS-D<sup>3</sup>Worker Bridge でテーブル名として用いられます。

レコードのID

項目

API参照名が指定された項目だけが使用されます。  
[名称]は、OPROARTS-D<sup>3</sup>Worker Bridge で項目名として用いられます。  
少なくとも一つの項目を[必須]とする必要があります。必須の項目すべての値が空白ではない場合に、レコードを登録します。  
項目の値は、エンベロープで設定します。

API参照名	名称	必須	+	×
<input type="text" value="FieldA__c"/>	<input type="text" value="項目A"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		×
<input type="text" value="FieldB__c"/>	<input type="text" value="項目B"/>	<input type="checkbox"/>		×
			+	×

関連オブジェクト

関連オブジェクトの追加

項目名	説明
API 参照名	更新の対象となる親オブジェクトの API 参照名を入力します。 [読み込み]をクリックすると、その下の「名称」と「項目」が自動で入力されます。
名称	Office アドイン「OPROARTS-D3Worker Bridge」でテーブル名として使用されます。 API 参照名の横の[読み込み]をクリックした際に自動入力されますが、お好みで変更してください。
レコード ID	更新するレコードの ID を指定します。エンベロープを設定する際に指定するので、ここでは何も設定しません。
項目	更新対象の項目を指定します。 [読み込み]をクリックすると指定したオブジェクトの全ての項目が入力されるので、不要なものは [x] ボタンで削除してください。  API 参照名: 項目の API 参照名を入力します。 名称: OPROARTS-D3Worker Bridge で項目名として使用されます。 必須: これにチェックを入れた項目が空の場合はレコード登録が失敗します。 ※少なくとも 1 つの項目について、「必須」にチェックを入れてください。

以上の設定が終わったら、[関連オブジェクトの追加]をクリックして関連オブジェクトの設定に移ります。

## 関連オブジェクト

Excel シートから登録したい親オブジェクトの情報を入力します。

関連オブジェクト

関連オブジェクトの追加

API参照名  読み込み

[読み込み]で、オブジェクトの名称と項目をSalesforceから取得し、設定します。現在設定されている名称と項目は全てクリアされます。

主従関係 主オブジェクトと主従関係にある場合にチェックします。

名称

OPROARTS-D3Worker Bridge でテーブル名として用いられます。

レコードのID

項目

API参照名が指定された項目だけが使用されます。  
[名称]は、OPROARTS-D3Worker Bridge で項目名として用いられます。  
少なくとも一つの項目を[必須]とする必要があります。必須の項目すべての値が空白ではない場合に、レコードを登録します。  
[リレーション]をチェックした項目では、主オブジェクトのIDが値に用いられます。  
項目の値は、エンベロープで設定します。

API参照名	名称	必須	リレーション	+	x
<input type="text" value="ParentObject__c"/>	<input type="text" value="親オブジェクト"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		x
<input type="text" value="FieldC__c"/>	<input type="text" value="項目C"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		x
<input type="text" value="FieldD__c"/>	<input type="text" value="項目D"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		x

+ x

主オブジェクトと同様、オブジェクトの API 参照名を入力した後に[読み込み]をクリックして更新対象項目を決定します。

## 3.2 エンベロープの作成

基本情報と属性をお好みで設定したら、文書化サービスと配送サービスの設定に移ります。

### 文書化サービス

「ダミー文書」サービスを基に作成したサービスを指定します。

#### 選択済みの文書化サービス

ダミー文書

一つの空のファイルを文書として用いる文書化サービスです。  
文書化サービスを必要としないエンベロープで使用できます。  
このサービスでは、ワークの[文書とデータのマッピング]の設定は使用しません。

### 配送サービス

「Salesforce一括登録」サービスを基に作成したサービスを指定します。

サービス作成時に指定した更新対象項目のエンベロープパラメータ名を設定します。

[エンベロープパラメータの一括設定]ボタンをクリックすることで、OPROARTS-D3Worker Bridge が参照できる書式で、各項目の値にエンベロープパラメータが自動入力されます。

#### 選択済みの配送サービス

Salesforce一括登録\_らくらくExcelマニユ: ▼

**エンベロープパラメータの一括設定**

OPROARTS-D3Worker Bridge が参照できる書式で、各項目の値にエンベロープパラメータを設定します。  
現在設定されている値は全てクリアされます。

[レコードのID]は、レコードを作成するか更新するか判断に用いられます。  
必須の項目すべての値が空白ではない場合に、レコードのIDで指定されたレコードを更新します。  
レコードが存在しない場合、レコードのIDが空白の場合はレコードを作成します。

[SOQL]をチェックすると、指定された値を、登録に用いる値を取得するためのSOQLとして扱います。  
SOQLは、一つの項目を、一件だけ取得するものとしてください。  
SOQL内のエンベロープパラメータ値はエスケープされます。したがって引用符を含むSOQL全体をエンベロープパラメータで指定することはできません。

#### 主オブジェクト

API参照名 ParentObject\_\_c  
名称 親オブジェクト  
レコードのID {P.親オブジェクト.ID} 編集 SOQL

項目 [必須]の項目には必ず値を設定する必要があります。

API参照名	名称	必須	値
FieldA__c	項目A	<input checked="" type="checkbox"/>	{P.親オブジェクト.項目A} 編集 SOQL
FieldB__c	項目B	<input type="checkbox"/>	{P.親オブジェクト.項目B} 編集 SOQL

#### 関連オブジェクト

API参照名 ChildObject\_\_c  
名称 子オブジェクト  
レコードのID {C1.子オブジェクト.ID} 編集 SOQL

項目 [リレーション]ではない[必須]の項目には必ず値を設定する必要があります。

API参照名	名称	必須	リレーション	値
ParentObject__c	親オブジェクト	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
FieldC__c	項目C	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	{C1.子オブジェクト.項目C} 編集 SOQL
FieldD__c	項目D	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	{C1.子オブジェクト.項目D} 編集 SOQL

**Point**

自動入力されるエンベロープパラメータは{(P or C1).(オブジェクト名ラベル).(項目名ラベル)}の形式で入力されます。  
この形式で入力することにより OPROARTS-D3Worker Bridge アドインでの表示が見やすいものとなります。  
例えば、{P.親オブジェクト.ID}・{P.親オブジェクト.項目 A}・{P.親オブジェクト.項目 B}で設定したエンベロープパラメータからワークのデータソースを作成すると、その項目は OPROARTS-D3Worker Bridge アドインにて以下のように表示されます。

親オブジェクト		
ID	<input type="text" value="B4"/>	セル座標▼
項目A	<input type="text" value="C4"/>	セル座標▼
項目B	<input type="text" value="D4"/>	セル座標▼

## 3.3 ワークの作成

### 3.3.1 データソースの設定

先に[エンベロープ]タブに移動し、3.2 で作成したエンベロープを選択して、[エンベロープパラメータからデータソースを構築]をクリックします。これにより、データソースが自動入力されます。

基本 | データソース | エンベロープ | 文書とデータのマッピング | ワーク [らくらくExcelマニュアル] の編集 OPRO D3Worker

エンベロープフィールド: データソースの行番号  
ト:  ソートする

エンベロープの選択:  ▲

選択済みのエンベロープ: らくらくExcelマニュアル

エンベロープパラメータからデータソースを構築

[データソース]タブをクリックし、残りの設定をします。

文字コードを「UTF-8」に、先頭行の「データとして使用しない」をオフにします。

基本 | データソース | エンベロープ | 文書とデータのマッピング

**CSVの形式**

文字コード: UTF-8

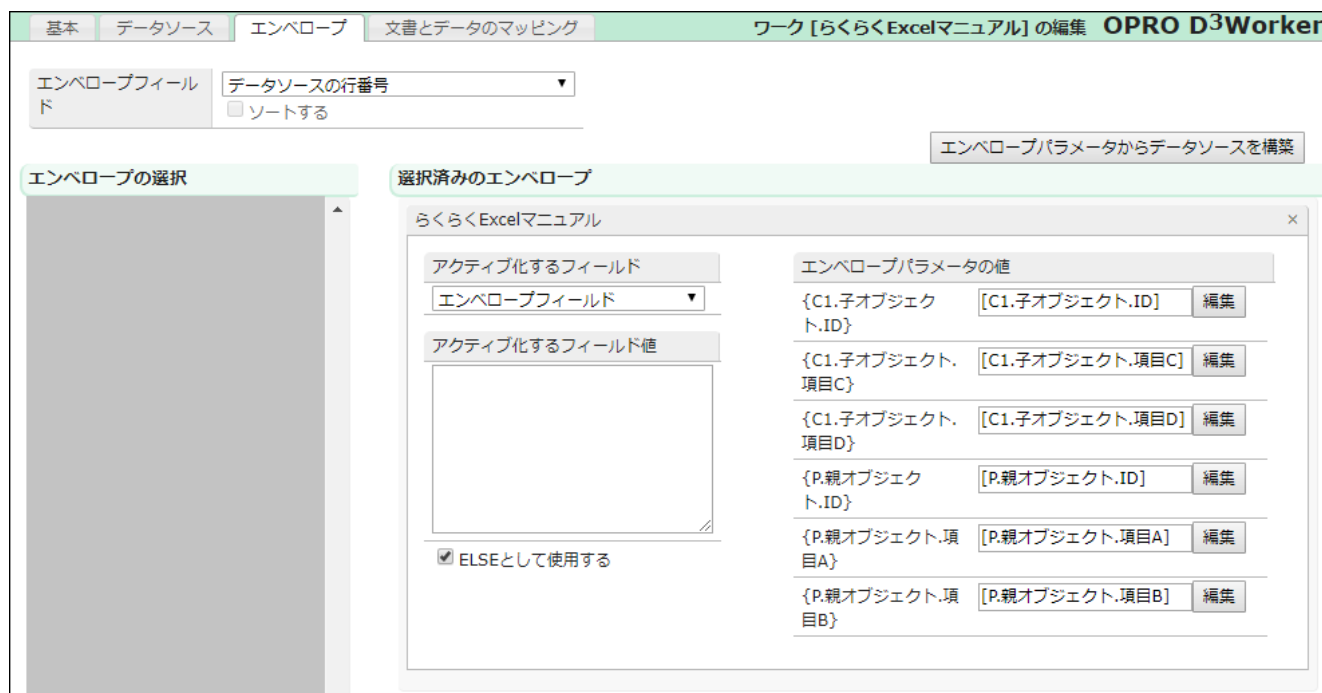
先頭行:  データとして使用しない

**フィールド**

	フィールド名	+	×
1	C1.子オブジェクト.ID	▼	×
2	C1.子オブジェクト.項目C	▲ ▼	×
3	C1.子オブジェクト.項目D	▲ ▼	×
4	P.親オブジェクト.ID	▲ ▼	×
5	P.親オブジェクト.項目A	▲ ▼	×
6	P.親オブジェクト.項目B	▲	×
		+	×

### 3.3.2 エンベロープの設定

3.2 で作成したエンベロープを選択し、エンベロープフィールドに「データソースの行番号」を、アクティブ化するフィールドに「エンベロープフィールド」を指定、「ELSE として使用する」にチェックを入れます。



### 3.3.3 文書とデータのマッピング

「文書とデータのマッピング」については、エンベロープの文書化サービスに「ダミー文書」サービス(文書を生成しないサービス)を使用するため、設定事項はありません。



# 4. Office アドインの設定

Office アドイン「OPROARTS-D3Worker Bridge」をインストールし、設定します。

## 4.1 Excel ファイルを用意する

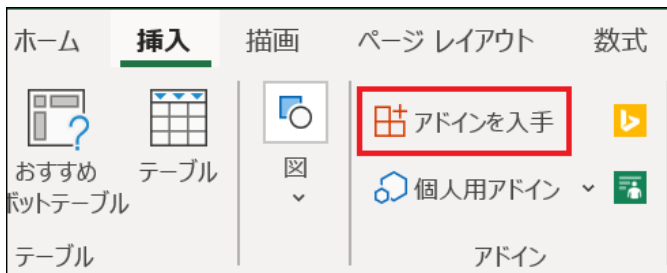
Salesforce のレコードを登録・更新するためのデータが入った Excel ファイルを用意します。

アドインをインストールする前の Excel シートは、以下のようになっているものとします。

	A	B	C	D	E
1					
2		親オブジェクト			
3		ID	▼ 項目A	▼ 項目B	▼
4			らくらく	777	
5					
6		子オブジェクト			
7		ID	▼ 項目C	▼ 項目D	▼
8			¥10,000	070-123-4567	
9			¥20,000	070-123-4568	
10			¥30,000	070-123-4569	
11			¥40,000	070-123-4570	
12			¥50,000	070-123-4571	
13					

## 4.2 アドインをインストールする

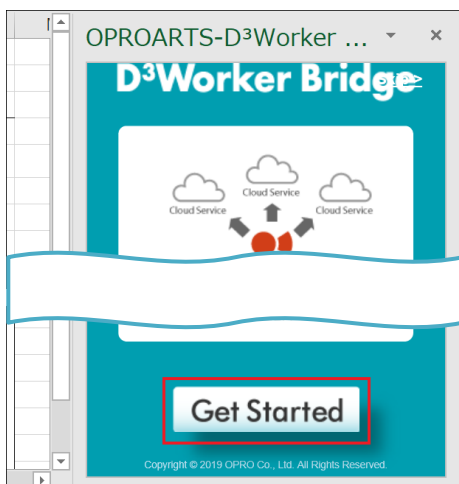
まず、[挿入]タブの[アドインを入手]をクリックします。



開いたアドイン検索画面左上の検索ボックスに「OPROARTS-D」と入力して Enter キーを押すと、候補に「OPROARTS-D<sup>3</sup>Worker Bridge」が表示されるので、[追加]をクリックしてインストールします。



[Get Started]をクリックすると、設定画面に遷移します。



## 4.3 アドインの設定

### 4.3.1 接続情報の入力

「OPROARTS-D3Worker へのログイン」で D3Worker の「テナント」「UID」「UPW」を入力したら、  
[接続確認]をクリックします。

OPROARTS-D<sup>3</sup>Worker へのログイン

OPROARTS-D<sup>3</sup>Worker の URL

テナント

UID

UPW

UID/UPWをローカルに保存する  
チェックした場合、UID/UPWをブラウザに保存します。ローカルのExcel上で利用している場合、ブラウザはInternet Explorer 11 または Edgeになります。

**ログイン**

「UID/UPW をローカルに保存する」にチェックを入れると、ログアウト後再度ログインする際に UID と UPW の入力を省略できます。

### 4.3.2 使用するワークの選択

作成したワークを選択します。

フィルタに文字列を入力することで、ワークの候補を絞り込みます。

OPROARTS-D<sup>3</sup>Worker ...

OPROARTS-D<sup>3</sup>Worker 上でのワークを利用するかを選択します。

**OPROARTS-D<sup>3</sup>Worker 設定画面を開く**

クリックすると、ブラウザ上で OPROARTS-D<sup>3</sup>Worker の設定画面が開きます。

フィルタ

OPROARTS-D<sup>3</sup>Worker ワーク一覧

らくらくExcelマニュアル

OPROARTS-D<sup>3</sup>Worker 上のワークのうち、どのワークを利用するかを指定します。

### 4.3.3 ワークのデータソースに対する値の選択

選択したワークのデータソースに当てはめる値を Excel シートから選択します。

#### データ読込関連設定

データ読込関連設定
▲

引用元シート制限 🔗 制限しない

データ検索基準セル 🔗 C8 セル座標

1レコード毎に繰り返す行数 1 行

明細検索方法 列内で次の空白値に到達するまで ▼

マッピング位置確認用式出力先セル 🔗 F3 セル座標

引用元シート制限	<p>ここに入力した文字列に当てはまるシート名のシートからのみ、D3Worker へのリクエストが可能になります。</p> <p>正規表現(*と?のみ)も使用可能です。*は 0 文字以上の任意の文字列を表し、?は任意の一文字を表します。</p> <p>例えば「シート 1」「シート 2」「シート 10」を含む Excel ファイルを想定すると、「シート*」を入力した際には 3 つ全てのシートから、「シート?」を入力した際には「シート 1」「シート 2」からのリクエストが可能になります。</p>
データ検索基準セル	<p>ここで指定したセル以下の行について、このセルと同じ列に値が入っている行を明細行とみなします。</p>
1レコードごとに繰り返す行数	<p>何行で明細 1レコードとみなすかを指定します。</p>
明細検索方法	<p>データ検索基準セルの下方のどこまでを明細行として扱うかを指定します。「列内で最後の入力がある箇所まで」「列内で次の空白値に到達するまで」のどちらかを選択します。</p> <p>「列内で最後の入力がある箇所まで」を選んだ場合はデータ検索基準セルと同じ列に空でないセルを含む一番下の行までを、「列内で次の空白値に到達するまで」を選んだ場合はデータ検索基準セルと同じ列に空のセルを含む一番上の行の前の行までを明細行として扱います。</p>
マッピング位置確認用式出力先セル	<p>ここで指定したセルの上で F2 キーを押すと、どのセルがマッピング対象になっているか視覚的に確認できます。</p>

## 主オブジェクトと関連オブジェクトの対象項目に対する値

親オブジェクト		
ID	<input type="text" value="B4"/>	セル座標▼
項目A	<input type="text" value="C4"/>	セル座標▼
項目B	<input type="text" value="D4"/>	セル座標▼
子オブジェクト		
ID	<input type="text" value="B8"/>	セル座標▼
項目C	<input type="text" value="C8"/>	セル座標▼
項目D	<input type="text" value="D8"/>	セル座標▼

更新したい項目の値をどのセルから取得するか設定します。

明細オブジェクト(子オブジェクト)の項目については、一番上の行のセルを指定します。

**Point** 「セル座標」の部分で「固定値」に変更することで、左のテキストエリアに入力した文字列を固定値として使用することもできます。

マッピング位置確認用式出力先セルで F2 キーを押すと、このようにマッピング状況が表示されます。

	A	B	C	D	E	F	G
1							
2		親オブジェクト					
3		ID	項目A	項目B		=IF(ISERR((8:8,B8,B4,C4,D4,B8,C	
4			らくらく	777		とマッピング設定状況を確認でき	
5							
6		子オブジェクト					
7		ID	項目C	項目D			
8			¥10,000	070-123-4567			
9			¥20,000	070-123-4568			
10			¥30,000	070-123-4569			
11			¥40,000	070-123-4570			
12			¥50,000	070-123-4571			
13							

ここでは「ID」の値を取得するセルの値を空欄にしているため、レコードは新規登録されます。

既存レコードの ID を入力している場合は、ID に対応するレコードが更新されます。

**注意** 「送信」ボタンをクリックした後の確認画面は無いので、更新するつもりのないレコードの ID を誤って入力しないよう注意してください。

**Point** 明細行の始まり以降、明細行の基準セルとして設定したセルと同じ列に値がある限りその行は明細行として扱われます。  
「明細検索方法」のオプションでは、「同じ列に値がある限り」の部分の判定条件を指定します。

■ 「列内で最後の入力がある箇所まで」を選んだ場合

子オブジェクト			
ID	項目C	項目D	
	¥10,000	070-123-4567	
		0-123-4568	
このセルをデータ検索基準セルにすると		0-123-4569	
	¥40,000	070-123-4570	
	¥50,000	070-123-4571	
不要な文字列			
この行までの全ての行が明細行として扱われる			

■ 「列内で次の空白値に到達するまで」を選んだ場合

子オブジェクト			
ID	項目C	項目D	
	¥10,000	070-123-4567	
		0-123-4568	
このセルをデータ検索基準セルにすると		0-123-4569	
	¥40,000	070-123-4570	
	¥50,000	070-123-4571	
この行までの全ての行が明細行として扱われる			
不要な文字列			

## 4.4 Salesforce のレコードを登録・更新する

以上の設定が済んだら、D3Worker リクエスト後のオプションを選択し、下の[送信]ボタンをクリックします。

実行:らくらくExcelマニュアル

CSVダウンロード

実行後、シート上にIDのリンクを貼る

送信

送信後のオプションは以下の3つです。

オプション名	ワーク実行時の挙動
シートを更新しない	「送信」押下後にシート内容が変更されることはありません。
実行後、シート上に ID をテキストで出力	「送信」押下後に ID 項目参照元のセルの値が更新したレコードの ID(テキスト)で書き換えられます。
実行後、シート上に ID のリンクを貼る	「送信」押下後に ID 項目参照元のセルの値が更新したレコードの ID(リンク)で書き換えられます。 リンクをクリックするとデフォルトのブラウザが開き、対象のレコード詳細画面に遷移します。

ID 参照元セルに書き込まれたリンクをクリックして Salesforce のレコード画面を見ると、レコードが登録されていることが分かります。

	A	B	C	D	E
1					
2		親オブジェクト			
3		ID	項目A	項目B	
4		a1a0o00000YU6ShA	らくらく	777	
5					
6		子オブジェクト			
7		ID	項目C	項目D	
8		a1b0o00000DdC0rA/	¥10,000	070-123-4567	
9		a1b0o00000DdC0rA/	¥20,000	070-123-4568	
10		a1b0o00000DdC0rA/	¥30,000	070-123-4569	
11		a1b0o00000DdC0rA/	¥40,000	070-123-4570	
12		a1b0o00000DdC0rA/	¥50,000	070-123-4571	
13					

## 親オブジェクト


親オブジェクト  
P - 0011

関連 詳細

---

親オブジェクト名  
P - 0011

項目A  
らくらく

項目B  
777

## 子オブジェクト

親オブジェクト > P - 0011
新規

子オブジェクト

5個の項目・数秒前に更新されました

設定
リフレッシュ
絞り込み

	子オブジェクト名	項目C	項目D	
1	C - 0033	¥ 10,000	070-123-4567	▼
2	C - 0034	¥ 20,000	070-123-4568	▼
3	C - 0035	¥ 30,000	070-123-4569	▼
4	C - 0036	¥ 40,000	070-123-4570	▼
5	C - 0037	¥ 50,000	070-123-4571	▼



## 5. その他機能紹介

らくらく Excel に関する補足情報を記載しています。

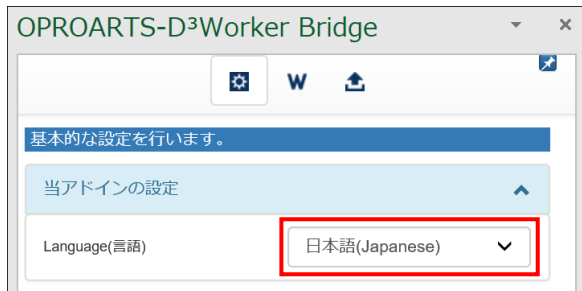
### 5.1 Office アドイン「OPROARTS-D3Worker Bridge」の機能紹介

ここでは前章で紹介していない「OPROARTS-D3Worker Bridge」の機能について紹介します。

#### 5.1.1 表示言語を変更する

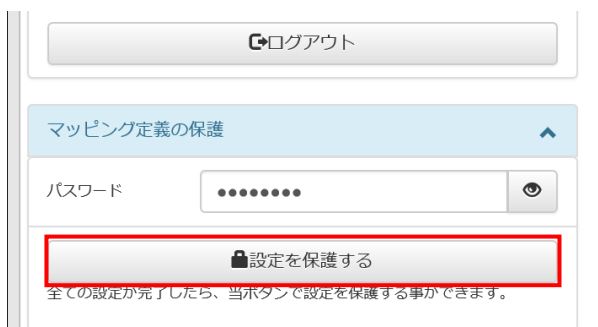
接続情報を設定したタブを開くと、表示言語を選択する項目があります。

表示言語では日本語と英語が選択可能です。



#### 5.1.2 パスワードを設定する

アドイン設定をした Excel ファイルを共有した上で設定の変更は一部のユーザーのみに許可したいという場合、マッピング定義にパスワードを設定することが可能です。



パスワードを入力して[設定を保護する]をクリックすると、パスワードの再入力を求められるため再度入力して、[設定を保護する]をクリックします。

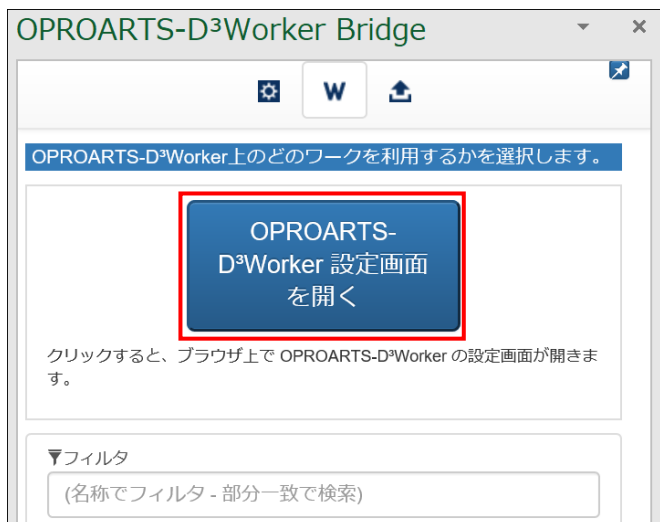
パスワードを設定すると、使用するワークの変更やマッピング定義の変更ができなくなります。

設定を編集する際は再度パスワードを入力して[設定の保護を解除する]をクリックすると編集ができるようになります。

**Point** パスワードを設定しても D3Worker の認証情報は編集することができるため、アドインの設定をした Excel ファイルを入手した他ユーザーに認証情報が渡ってしまうのではないかとこの疑問を持つかもしれません。しかしローカルの Excel 上で OPROARTS-D³Worker Bridge を利用する場合、D3Worker の認証情報は Excel ファイルではなく Internet Explorer のローカルストレージに保持されるため、アドインの設定を行った Excel ファイルを他ユーザーと共有するだけで D3Worker へのアクセスを許してしまうということはありません。

### 5.1.3 D3Worker の設定画面を Web ブラウザで開く

D3Worker へはブラウザに URL を入力し、続けてログイン情報を入力することでもアクセスできますが、OPROARTS-D3Worker Bridge にて認証情報を入力した後であればこちらの[OPROARTS-D3Worker 設定画面を開く]ボタンをクリックすることでよりスムーズにアクセス可能です。



### 5.1.4 D3Worker の設定と同期する

「OPROARTS-D3Worker Bridge」で設定を進めていくうちに D3Worker のワーク設定を変更したくなって変更したという場合、手元の Excel で表示されているワークのデータは変更前のままなので、変更したワークの設定と同期する必要があります。

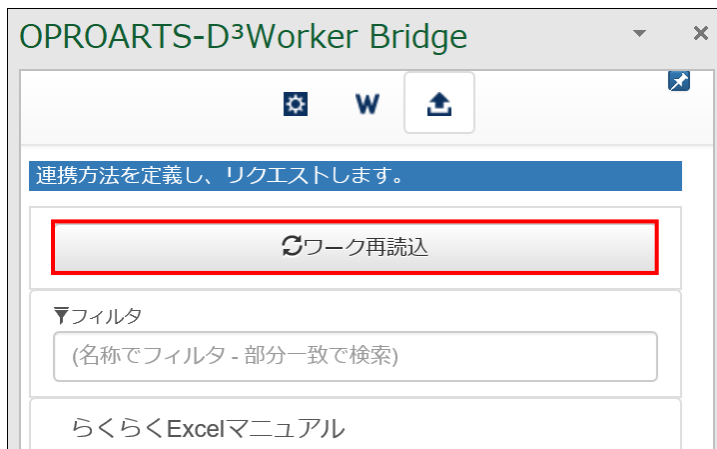
同期の方法は以下になります。

- 新しくワークを作成して、そのワークを Excel で選択したい場合

ワーク選択画面にて[ワーク一覧再読込]ボタンをクリックすると、表示されているワークの一覧が D3Worker に登録されている最新の情報と同期されます。



- 選択済みのワークの設定を変更して、変更をマッピング画面に反映させたい場合  
マッピング画面にて[ワーク再読込]ボタンをクリックすると、表示されているワークのデータソースの情報が D3Worker 上の最新のものと同期されます。



### 5.1.5 実行履歴を見る

[送信]ボタンをクリックしてワークを実行した後、下に表示される履歴をクリックすると更新したレコードの ID が表示されます。レコード ID はリンクになっており、クリックすることで更新したレコードの詳細画面が表示されます。



[履歴確認] ボタンをクリックすることで実行したワークの実行結果を確認することができます。

**送信**

クリックすると、設定内容に基づいてExcelシート内のデータを収集し、収集したデータを OPROARTS-D³Worker に送信します。

D³Workerのワークデータソースでは、

- ・文字コード: UTF-8
- ・先頭行、データとして使用しない: オフ

としてください。

**結果**    **送信時刻**   

完了     2020/03/06 17:36:56.936  
以下のレコードを処理しました。

a1a0o0000YU6ShAAL  
|a1b0o0000DdC0XAAV  
|a1b0o0000DdC0cAAF  
|a1b0o0000DdC0hAAF  
|a1b0o0000DdC0mAAF  
|a1b0o0000DdC0rAAF

[検索]ボタンをクリックすると、ジョブ ID に対応するワーク実行結果が表示されます。

履歴検索

検索条件

日時    2020/03/06    00:00    -    [ ]    [ ]

件名    [ ]

並び替え

日時    [ ]

昇順     降順

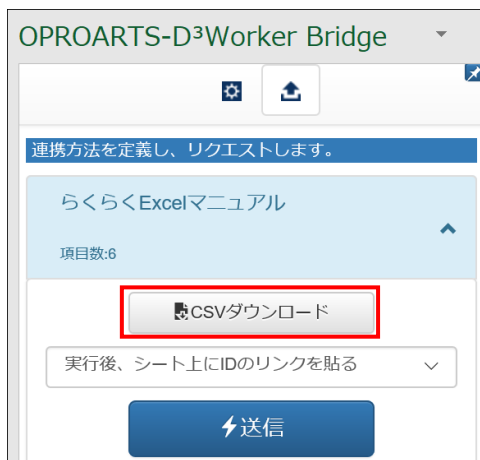
検索結果をCSV形式で取得

ワークが正常に終了していれば「完了」、失敗していれば「エラー」が表示されます。

日時	件名	属性1	属性2	属性3	属性4	属性5	状況
2020/03/06 17:36:56							完了
2020/03/06 17:36:56							完了
2020/03/06 17:36:56							完了
2020/03/06 17:36:56							完了
2020/03/06 17:36:55							完了

## 5.1.6 ワーク実行に利用した CSV データをダウンロードする

[CSV ダウンロード]ボタンをクリックすることで、D3Worker がワーク実行に使用した CSV データをダウンロードすることができます。



## 5.1.7 フィールドのインポートとエクスポート

データソースのフィールドに対して設定したセルや固定文言の設定をエクスポートすることができます。[エクスポート]をクリックするとマッピング定義の設定を含んだ JSON 形式のテキストファイルがダウンロードされるので、保存します。



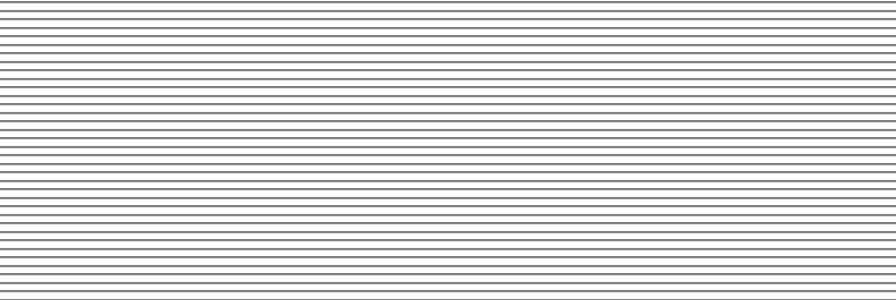
エクスポートした設定は、エクスポート時に保存したファイルをインポートすることで再現が可能です。

## 5.2 らくらく Excel の応用例


本マニュアルではらくらく Excel の機能を説明すべく、シンプルな Salesforce カスタムオブジェクトと Excel シートを用いて操作方法を説明しましたが、より具体的な使用例を以下ページにて紹介しています。

<https://spc.opro.net/hc/ja/articles/360037604273>

実際の Excel 帳票から Salesforce のレコードを更新したい場合などは、本マニュアルと合わせてご参照ください。



らくらく Excel  
ユーザーガイド



発行元 株式会社オプロ